

昔話を絶やさない為に

3年1組13番 小西 亜季

【はじめに】

世の中のものゝは沢山の変化を遂げ今に至る。そして、変化をしないものはその時代に取り残されいづれなくなっていく。変化を遂げ今でも利用されているものの例として、テレビやスマホなどがあげられる。テレビは元はブラウン管という縦幅の大きい、画面が小さく画質の荒いものであったが、現在多くの人々に利用されているテレビは幅が薄くさらに、画面も大きく、非常に画質の良いものである。また、スマホなども最初はガラケーと言われる折りたたみ式のもので、できることがメール、電話、カメラ機能等限られていたが、今ではほぼ全てのことがスマホで完結してしまうほど多機能である。このようにその時代によって求められる姿に形を変えることで長く使い続けられるものになっていく。

そして、グローバル探究にて先人の知恵というゼミに配属され、このように形を変え今でも受け継がれているものというのを考えた時、昔話が思い浮かんだ。

昔話は幼稚園や保育園に通っていたほぼ全員が、『桃太郎』や『花咲かじいさん』等の昔話の読み聞かせを体験したことがあるものだと思う。これらの昔話は、長い年月の間失われることなく現在まで語り継がれている。

どういった変化が昔話をここまで受け継がせてきたのか、また、そこから更に未来へ受け継ぐ為にはどのように変化させればいいのか。これらの事に興味を持ち、私は『昔話を絶やさない為に』というテーマで探求をする事に決めた。

【序論】

まず、本探究の目的は『桃太郎』という長く語り継がれている物語をさらに長く未来に語り継ぐことである。『桃太郎』のような長寿の物語であっても長い間変化もなくこのままの状態ではいつかなくなってしまうと思ったからだ。

また、多様性を重視している現代ではそれにそぐわない表現を含む昔話も少なくはない。これは、時代と時代とのギャップから生じるものである。このギャップを無くさなければ現代でも受け入れられる物語になることは不可能だ。そこで、今までの変化の過程を調べることで昔からある『桃太郎』という物語がその時代によってどう適応していったかを知ることが出来る。これは、『桃太郎』を未来に繋げるためにどう変化させれば良いかという問題を解決するための鍵になると考えた。

研究方法としては、文献調査やアンケート調査を主に行った。文献調査で参考にした資料としては、尾崎紅葉氏の『鬼桃太郎』、小池藤五郎氏の『桃太郎説話の研究』である。前者は1891(明治24)年に印刷出版されたもので、昔の『桃太郎』のパロディという観点から参考にした。また、どうしてパロディ作品を資料に選んだのかと言うと、『桃太郎』自体の変化ではなく『桃太郎』に関連するものの出現における『桃太郎』原作への影響を考慮するためである。後者は、『桃太郎』の原作を探す際にどの資料を読めば良いかなどの点から参考にした。原作と現在の子供向けに書き換えられている『桃太郎』では、内容や表現に変化はあるのかという部分を調べるのにおいて必要だった。

アンケート調査に関しては、校内にアンケートのQRコードを掲示しておき目に付いた生徒がアンケートに答えるという方式をとった。結果45人の回答を集めることが出来た。

【本論】

まず昔話がなぜ今まで親しまれてきたのかという点だが、私は昔話は子供主に幼稚園児などを対象に人生の教訓を教えるものだと考えている。言い換えれば教育本のようなものである。例えば、『桃太郎』では鬼という強大な敵に仲間の力を借りて共に立ち向かうことや逆に鬼目線と言えば、村の物を奪うなど人を傷つける行為をしたものは後で痛い目に合うといったことを子供達に教えているのではないかと思う。

では、本題である『桃太郎』がどのように変化してきたのかについて見解と調査の結果を以下に述べる。

まず初めに、内容の変化に着目した。比較するにあたって原作の桃太郎として参考にしたのが『古事附桃太郎』だ。小池藤五郎氏の桃太郎説話の研究を参考にして原作とする『桃太郎』を選んだ。そして、現代の『桃太郎』として参考にしたのが昔話童話童謡の王国というインターネットホームページに掲載されている『桃太郎』だ。また、今回2つの比較を行う際に学校で行ったアンケートの『1番印象に残っているシーンはどこか』という問いに対しての回答にて多く答えられていた1, きびだんごをあげる、2, 鬼と戦う、3, 桃太郎が鬼を倒す、4, 桃から子供が出てくる、5, 桃を割る、6, 動物と仲間になるといった部分に注目し比較した。

だが実際この2つを比較してみたところ、現代語と古語の違いはあれど内容自体に違いはなかった。また、アンケートにて多く答えられていたシーンに関しても内容の改変は見られなかった。

次にパロディへ着目した。いわば二次創作である。パロディに繋げることで昔話がより伝わりやすくなると考えたからだ。また、原作とパロディを比較することでどの部分をどのように変えればまた違った面白みが出て人気に繋がり、『桃太郎』が語り継がれることに繋がるのではないかと考えた。パロディとして参考にしたのは尾崎紅葉氏の『鬼桃太郎』だ。大まかな内容としては鬼が桃太郎に敗北したあとの話で、鬼ヶ島への侵入を許してしまった鬼の夫婦が世間から身を隠してひっそりと暮らしている家の付近にある川に大きな桃が流れてきて中から立派な鬼が出てきて、その鬼の名前を鬼桃太郎とし桃太郎を討伐に向かわせる話だ。

この『鬼桃太郎』を読み、対になっている昔話や、後日譚は人々の興味を引きやすいと考えた。例えば有名な漫画では岸本斉史氏の『NARUTO』完結後のアフターストーリーである『BORUTO』や、赤塚不二夫氏の『おそ松くん』のリメイク作品である『おそ松さん』等があげられる。

1人のキャラクターに着目したストーリーや主人公の子供、登場人物が大人になった世界線の話等、昔話の『桃太郎』もこのような話をつくることで、さらに長く語り継ぐことが出来るのではと考えた。例に出したアニメと同様に『桃太郎』が有名というのは前提であくまで思い出すきっかけとなるのではないかと思う。

そこで少し『桃太郎』を題材にしている作品を調べてみたところ、週刊少年チャンピオンにて連載中の『桃源暗鬼』(作/漆原侑来)という漫画を見つけた。この漫画は、正義とは何なのか考えさせられる漫画になっており、一概に鬼か桃太郎のどちらが悪とも言えない対立構造が魅力的な漫画となっている。

まず、問題はこの漫画が原作版の『桃太郎』にアクセスするきっかけになっているのかという部分だが、この漫画に対する評価やレビュー等を見ていると評価者は『桃太郎』を既に知っている状態でこの漫画を読んでいる。故に、この漫画が原作版『桃太郎』にアクセスするきっかけになっているのかという点は不明瞭であった。しかし、長らく触れていなかったであろう『桃太郎』という昔話に改めて接触するきっかけになっていることから、原作版『桃

太郎』を長く親しまれるものにするという観点でこの漫画は大いに影響を及ぼしていると言える。

そして、このパロディやオマージュによって原作をより多くの人に知ってもらうという点で問題になってくるのが内容の改変をどこまで許容するのかということである。この問題は、個人の主観によるのではないかと思う。

筆者の場合では、パロディなどは原作あってこそ成り立つものだからこそ原作に敬意が感じられない作品を通して世の中の人に原作の存在を知ってもらうことは原作への侮辱に値すると考えている。故に、作品への敬意を感じられて、二次創作者が原作を履修して原作に対する考えを深めていけば内容の改変の度合いはさほど重要でないとする。

また、『桃太郎』などの童話に関しては基本的に著作権が発生しないとされている。現在、著作者の死後70年間まで著作権が有効とあり、また作者不明の場合公表から70年間著作権が有効と公益社団法人著作権センターより明記されているので、これを昔話に基本的にほとんどの昔話が著作者の死後または公表後から70年以上経過していると推測されるので著作権は無効であると考えられる。このことから、二次創作をする上での作者の許諾を得るという問題はこの作品が著者の死後70年以上経過していることから問題は無い。

【結論】

今回の探究では『桃太郎』という物語自体が変化したことにより現代でも親しまれる物語になっていると最初の段階では仮定し、その変化の過程から学びこれからも『桃太郎』が語り継がれていくためにはどう変化させるべきかを考えようとしていたが、実際には桃太郎の内容はほとんど変わっていなかった。

そこで未来に繋げるため別の糸口として見つけたのが二次創作であった。二次創作品を媒体にして世の中に原作の存在を認知してもらうと昔話へ手を加えることなく昔話に興味をもつきっかけを作れる。または、長らく触れていなかった昔話に触れるきっかけになるという点が利点だ。

二次創作は、内容改変が避けられないコンテンツではあるがこの部分に関しては先程説明した通り法律上著作権は昔話に有効ではないと考えることができるので問題はない。

今後の課題としては、実際に自分自身で桃太郎の内容への理解が深まりかつ原作版桃太郎に興味を湧くような二次創作品を考案し作成することである。

また、今回テーマである昔話を絶えさせない為に間接的な解決策のみを講じているので、今後さらに直接的なアプローチが出来ればと思う。例えば、現段階では桃太郎(原作)を知ってもらう事を目標として探究してきたが、知ってもらった上で内容への理解を深めてもらうことを目標にこれからも探究を進めていきたい。

【おわりに】

筆者は、この探究を通して文化継承の苦難や軌跡を学ぶことが出来た。

また、今こうして昔話を絶えさせない術をSNSやアンケートなど様々なツールを活用し模索している中、昔話が作られたであろう年代にはそのようなものが一切ないながらも今もこうして伝え聞かされているということに感動した。今までもうっすらとはわかっているが深く考えることはせず、ただあるものを受け入れてきていたが自分が何かを未来へ繋げる立場になって色々なことを試行錯誤していくと改めて先人らの凄みに気づくことが出来た。

そして、自分自身でも日頃にある先人の知恵や昔話に関連するものなどにより注意が向くようになった。気に留めていなかった活動や書籍が目につくようになり昔話を未来に繋げ

るための方法をしばしば考えるようになった。また、自分の探究テーマ以外の事も発表を通して学び本当に国内外問わず様々な事柄についても意識するようになった。

これからは、世界中のあらゆる問題を自分事として捉えることを前提としてその問題に対してまず、根本的な問題点はどこかどうすれば解決することができるのか、そして実際に行動してみる。この、実際に行動するという点に重きを置いてこれからも様々なことを探究していきたいと思った。

【参考文献,出典】

フュージョンマーケティング株式会社 (昔話童話童謡の王国)

引用作品: 桃太郎 <https://www.douwa-douyou.jp/>

【最終アクセス日】10月4日

小池藤五郎『古文献を基礎とした 桃太郎説話の研究上』1967年2月15日 (最終アクセス 2022年 8月3日)

https://rissho.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2119&item_no=1&attribute_id=20&file_no=1&page_id=13&block_id=21

尾崎紅葉『鬼桃太郎』

https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUK Ewjf0paog-b6AhXQ1GEKHQnUD3AQ1bUFegQIEBAA&url=https%3A%2F%2Fwww.aozora.gr.jp%2Fcards%2F000091%2Ffiles%2F50354_66120.html&usq=AOvVaw0RWtWe2eWerxzs6sGTNILh

【原作】岸本斉史 **【出版社】**集英社 **【作品】**『NARUTO』

【連載期間】(週刊少年ジャンプにて)1999年43号～2014年50号

【原作・監修】岸本斉史 **【作画】**池本幹雄 **【出版社】**集英社

【作品】『BORUTO』**【連載期間】**(週刊少年ジャンプにて)2016年5月23号～2019年9月号 (移籍後Vジャンプにて)2019年9月号～現在も連載中

【原作】赤塚不二夫 **【出版社】**小学館 **【作品】**『おそ松くん』

【連載期間】(週刊少年サンデーにて)1962年4月15日16号～1969年5月18日21号

【監督】藤田陽一 **【制作】**studioぴえろ **【作品】**おそ松さん

【放送期間】2015年10月～2016年3月

【原作】漆原侑来 **【出版社】**秋田書店 **【作品】**桃源暗鬼

【連載期間】(週刊少年チャンピオンにて)2020年28号～現在も連載中

【制作監督】文化庁 著作物等の保護期間の延長に関する Q&A

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/kantaiheiyo_chosakuken/1411890.html

【最終アクセス日】10月4日